③ 前田直典、十世紀時代の九族韃靼（東洋學報第卅二卷第一號）に、骨嵒屋骨は舊新唐書の俱羅勃＝掘羅勿なりと言ひ、橋本氏は之を骨利幹と同音異譯かと疑へり。（史潮第三卷第一號）

④ 舊唐書本紀天寶三載の條に

八月丙午。九姓拔悉密葉護。攻殺突厥烏蘇米施可汗。傳首京師。

と見ゆ。されど新唐書本紀にはその九姓の二字を削りて、只だ拔悉密と記せり。九姓拔悉密葉護と云へば、九姓と拔悉密との二部には非ずして、九姓中の、もしくは九姓より成りし拔悉密の葉護の意なるべし。然も拔悉密を九姓と稱する例は他に無く、却りて回鶻可汗紀功碑には卅姓拔悉密とあれば、之を以て直に拔悉密が九姓の一なりしとは認むべからざると共に、又之が九姓より成りしものとも認む可らず。止むなくば拔悉密中に卅姓より成りしものと九姓より成りしものとの兩部を認むべきなれど、恐らく舊書本紀の誤記に外ならざるべし。又同じ事件を舊書王忠嗣傳には天寶三載「突厥十姓拔悉密等。竟攻殺烏蘇米施可汗。傳首京師」と記せり。この十姓はまた九姓を誤りしものならん。

⑤ 回鶻部中には兩唐書に記さるゝ此等の九部より成りしものゝ外に、別に又十部より成りし一部もありしなるべきは補遺㈡に述べたり。

⑥ 開成四年。其（彰信可汗）相掘羅勿薦公。引山北沙陀。攻圍之。可汗自殺。國人立勿薦公。爲匱颯可汗。（唐會要卷九八。兩唐書にも見ゆ）

⑦ ラドロフが「クダツク・ビリク」第一卷に附したる原文及び譯文によれば、この一節は「この地方にはなほ百二十二部の民ありき」と訂正すべきなり。On Uiγur につきては本論末の補遺㈡の中に述べたり。

⑧ 又 British Museum 文書 07, 8212 (116) に

tängri ilig uiγur χa(χan?)

とあり。

回鶻諸佛典に見ゆる Uiγur なる名あるを注意すべし。但しこれは明かには時代を定めかぬるも、唐代佛典と認めらるゝ九姓回鶻と Toquz Oγuz との關係を論ず